

視 点

3000号を迎えて考える 本誌が提供していくこと

本誌は今号が3000号となる。太平洋戦争が始まった年である昭和16年4月（1941年）に創刊され、以後、85年間発刊を続けてきた。まずは、これまで本誌を支えてくださった読者をはじめ、取材や実務で協力していただいた方々に感謝を申し上げたい。

節目の文章を書くにあたり、四半世紀前の2000号（1998年10月21日号）を開いた。同欄に21世紀の社会保障の姿が見えず、「暗い世紀末と言わざるを得ない」とある。しかし当時、少子高齢化が忍び寄り社会保障の問題が先鋭化し、バブル崩壊で経済が揺ら

いでいたとしても、まだ経済大国の地位は確保されていたはずである。

その後、増える富の分配ではなく、増える負担の分かち合いの時代となり、社会保障でそれが中心的な課題となった。社会保障・税一体改革により安定財源確保と機能強化が実現したが、2040年まで医療・介護ニーズが高い高齢者が増加する中で、供給を支える資源制約はどんどん大きくなり、我々はさらに厳しい環境にいる。それを乗り越えていくためにも、本誌が伝えたい視点を2つ掲げる。

一つは、質が高く持続可能な社会保障

制度であることの内実をどう見極めるかである。保険で保障する範囲を小さくすれば、持続可能性は高まるが、国民に対する保障機能は弱まる。何をどう失うかを考える材料を提供したい。

もう一つは、地域医療構想と診療報酬の両輪で動かす医療提供体制の行方だ。地域医療を支えるため、医療機関の再編は間違いなく進む。その行方を注視し、現場が必要な情報を届ける雑誌としたい。

本誌が存続すれば、3500号は2040年。その時に明るい展望が書かれている未来となっているか。

社会保険旬報 目次

No.3000 2026年5月21日

座標

- 入院分科会が診療報酬改定検証を開始
日医が有床診療所のあり方で提言 4
- 日看協が看護職員実態調査の結果を公表
児童生徒の心の健康課題等を考察 5

特別企画

- 小樽市と四国中央市から
考える医療介護の地域差
高橋 泰 石川 賀代 藤澤 康聡 6

論評

- 日本における〈病院の待ち時間問題〉の30年
—「3時間待ちの3分診療」言説は
どこまで妥当か
入部 寛 12

全世代型社会保障への道筋②③

- 子ども・子育て支援金制度の
発足と今後の課題
山崎 泰彦 19

随想—視診・聴診

- サルも忘れるな
高山 哲夫 20

潮流

- 国循が循環器病のバーチャルDBを構築 21
- 健保組合の保険料率が19年ぶり引下げ 22
- 柔整・あはきの報酬改定率はプラス0.60% 24
- 財政制度等審議会が医療保険制度を議論 27
- 医療関係職種 of 安定確保検討会が初会合 28
- 社会福祉法等一部改正法案を国会に提出 30
- 医療保険制度改革法案の参議院の審議 32
- 外国人の取扱いなど諸外国の保険制度調査 33
- 看護職員の養成・確保検討会で議論 34
- がん対策推進計画の中間評価を議論 35
- 経済同友会が診療報酬改定等で提言 36
- 日薬連がアドボカシー活動を強化 37

NEWS

- 東京単一健保が総会開く
8年度事業計画を承認 等 38

経済スコープ 41

編集室・ワードカプセル 42